

「日本のパパ、ベトナムのパパ」



2006年に行われた調査で、日本の男性が子供と接する時間は、国際的にもとても僅かしかないという結果を聞きました。日本の男性は昔から育児をしないと思われがちですが、そうではないようです。江戸時代の武士の日記には、父親が子供の手習いを見てやったり、看病をしたり、細やかに子供の養育に関わっていた様子が描かれています。明治初期にも父親は子供、特に男児のしつけに熱心でしたが、明治の終わり頃になると、子供との距離を取るようになりました。そして、第二次世界大戦後、父親と子供との関係は大きく変わりました。1960年代の高度成長期には女性の主婦化が進み、企業中心の

社会が成立して、「父親は扶養、母親は養育」という性別役割分担体制が定着しました。

日本と対照的にベトナムでは、殆どの夫婦は共働きですから、夫のある程度の家事分担は当たり前です。そして、子供の養育には父親の役割が大きく、夕食後に母親が洗い物や片付けをしている間、父親が子供と勉強机に向かっているのはよく見られる光景ですし、仕事優先で家庭での時間や空間との間にハッキリとした境界線が引かれている日本とは異なり、ベトナムでは子供が小さい時には、その境界線が曖昧になります。父親が子育てに関わることは、家族の絆を深め、子供の成長や社会性の育成、そして母親のためにも、とても重要な事だと思います。

私は今年の3月に結婚しました。夫も留学生なので忙しくしていますが、洗濯や料理、ゴミ出し等を手伝ってくれますし、お弁当も準備してくれます。そして来年3月には出産する予定ですが、今から夫は育児の計画を立てています。ぜひ子供は良い環境で育てたいと思います。

